令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった
課題と学力向上に向けた取組

教科	国語

品川区立京陽小学校

【学校全体の結果】
・目標値と比較して上回っているのは第3・4・6学年、同等なのは第2・5学年である。
・前年度からの成長を見ると、第3・4・6年生のスコアが上がっている。
・基礎・活用の分析を見ると、どの学年も目標値を上回っており、特に第5・6学年は活用の問題での平均正答率が高い。

【第6学年】

1　概要		全体正答率は全国の目標値を上回っている。 また、領域ごとにばらつきはあるものの、全ての領域で目標値を上回っている。
2　課題と取組	①課題	領域「漢字を書く」「文章を書く」は目標値を上回ってはいるが、他の領域と比較すると正答率が低い。 「物語の内容の読み取り」の問題についても、区の平均と比べるとやや下回っている。
	②原因	漢字の定着に必要な学習量が不足している。また、問題の意図を正確に読み取り、条件に沿って文章を構成する力も弱い。読み取りは、短時間で描写を捉える力に課題が見られる。
	③方策	小テストやICTの活用に加え、日頃の授業でも学習した漢字を使用するように指導する。目的や意図をふまえて文章を作成する経験を増やす。授業内で、文章を読み解く時間を積極的に設ける。

【第5学年】

1　概要		全体正答率は全国の目標値を上回っている。しかし、区の平均と比べると、全ての項目が同等かやや下回る結果となっている。
2　課題と取組	①課題	領域「漢字を書く」「文章を書く」は、目標値を大きく下回ってる。「書く」ことの学習に課題が見られる。また、「説明文の内容を読み取り」の問題も目標値を大きく下回っている。
	②原因	1. 漢字を正確に習得できていない。2. 分かったこと、自分の考えを文章に表すことができていない。3. 説明文の内容を正しく読み取ることができていない。
	③方策	1. 小テストやICTを活用して漢字の定着を図る。2. 日頃から、自分の考えを文章に表す活動を取り入れる。3. 図書の時間を活用して、読み解く力の育成を図る。

【第4学年】

1　概要		全体正答率は、全国の目標値を上回っている。特に、「情報の扱い方に関する事項」については、全国平均正答率を大幅に上回った。
2　課題と取組	①課題	「調べたことをもとに文章を書く」の領域は目標値とほぼ同程度であった。自分の思いを文章に表すことや相手に読みやすく書くことに課題が見られる。
	②原因	日頃から作文を書いたり、物語や随筆の感想を書いたりすることに困難を示す様子が見られている。内容を理解し自分の意見をもつことはできるが、それを他者に伝わりやすいように、文章で表すことができない児童がいる。
	③方策	日常生活の中で、思ったことを相手に伝える場面を多く取り入れる。思ったことを文章の組み立てを考えながら、文章に表す学習活動を多く取り入れる。

【第3学年】

1　概要		全体正答率は、全国の目標値を大きく上回っている。 領域ごとにばらつきはあるものの、基礎・活用どちらも大きく上回っている。
2　課題と取組	①課題	「おれいの手紙を書く」の問題の正答率は下回っている。 必要な情報を整理し、順序を意識して文章の構成を考えて書く力の育成が必要である。
	②原因	事柄の順序に沿って文章の構成を考えて書く力が弱い。
	③方策	事柄の順序を整理し、文章の構成を考えて表現することに課題が見られるため、構成メモや順序を表す言葉を活用した指導をすすめる。

【第2学年】

1　概要		全体正答率は、全国の目標値を上回っている。 観点別正答率も知識、思考どちらも目標正答率を上回っている。
2　課題と取組	①課題	領域「書くこと」では、目標値を大きく下回っている。 「かん字をかく」の問題では、目標値を少々下回っている。
	②原因	誤答率43．1%のうち、39．2%が無回答であり、回答を書き始められていない児童が多い。 漢字で「出る」と書く問題で、「手る」「入る」と間違って書くことが多く見られた。
	③方策	領域「書くこと」に限らず、自分の考えを書く機会を増やす。 学期ごとの漢字の学習を早めに進め、漢字の復習の時間を確保する。